



# 2019年上期実績と下期の課題

- 2019年第2四半期決算説明会資料 -

---

**SHOWA  
DENKO**

2019年8月8日

**昭和電工株式会社**

代表取締役社長CEO 森川 宏平

1. 当社をめぐる2019年下期の経営環境
2. 2019年上期実績および2019年通期予想
3. 主要事業の状況と課題
4. 資金の使途と株主還元の充実
5. 次世代に向けた開発
6. SDGsへの貢献

# 1. 当社をめぐる2019年下期の経営環境

## 世界経済の減速を受け、顧客業界は深刻な生産・在庫調整

### □電子材料業界

上期ボトム・下期底這い状況が継続回復の兆しにバラつき

- 電子材料用高純度ガス  
回復は早くて4Qからを想定、顧客の停電の影響
- HD  
1Qをボトムに緩やかな回復傾向、4Qから本格回復
- パワー半導体SiC  
上期30%の成長を実現、PV以外は堅調
- セラミクス  
スマホ減速の影響を受けMLCC向け回復は来期へ

### □自動車

- 中国・欧州での生産減少長引き、回復は来期へ
- 自動車“CASE”、“電装化”進展

### □FA・産業機械

- 中国輸出低迷長期化、出荷大幅減少継続、回復は来期

### □黒鉛電極

- 下期は顧客電炉メーカーの在庫取り崩しによる見かけ上の需要減、下期をボトムに来期は回復

分野別天気図

|         | 2018<br>下期 | 2019<br>上期 | 2019<br>下期 | 2020<br>気配 |
|---------|------------|------------|------------|------------|
| 電子材料    |            |            |            |            |
| 自動車     |            |            |            |            |
| FA・産業機械 |            |            |            |            |
| 黒鉛電極    |            |            |            |            |

## 2. 2019年上期実績

### 上期最高益を達成

| (単位:億円)             | 2018年<br>上期実績<br>a | 2019年<br>上期実績<br>b | 増減<br>b-a | 2019年上期<br>2/14発表予想値 |
|---------------------|--------------------|--------------------|-----------|----------------------|
| 売上高                 | 4,558              | <b>4,755</b>       | 196       | 5,200                |
| 営業利益                | 779                | <b>855</b>         | 76        | 910                  |
| 経常利益                | 776                | <b>848</b>         | 73        | 905                  |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 579                | <b>658</b>         | 79        | 630                  |
| 中間配当                | 20円                | <b>50円*</b>        | 30円       | 50円                  |

※9月9日より支払開始

### ◆特別損失

- ・減損損失 11億円計上 (国内アルミ缶生産能力適正化にかかる除却損等)

## 2. 2019年通期予想

通期業績予想修正 厳しい環境下ボトムレベルの収益性を確認

| (単位:億円)             | 2018年<br>通期実績<br>a | 2019年<br>通期予想<br>B | 増減<br>b-a | 2019年<br>前回予想 |
|---------------------|--------------------|--------------------|-----------|---------------|
| 売上高                 | 9,921              | <b>9,800</b>       | △121      | 11,000        |
| 営業利益                | 1,800              | <b>1,450</b>       | △350      | 1,900         |
| 経常利益                | 1,788              | <b>1,420</b>       | △368      | 1,850         |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 1,115              | <b>900</b>         | △215      | 1,200         |
| 年間配当                | 120円               | <b>130円(予定)</b>    | 10円       | 130円          |

### ◆修正の前提

- ・下期黒鉛電極価格：2017年比5倍弱、販売数量：年初予想比15%程度減少を想定
- ・特別損失 200億円（事業構造改革を推進）

## 2. 2019年通期 営業利益差異分析

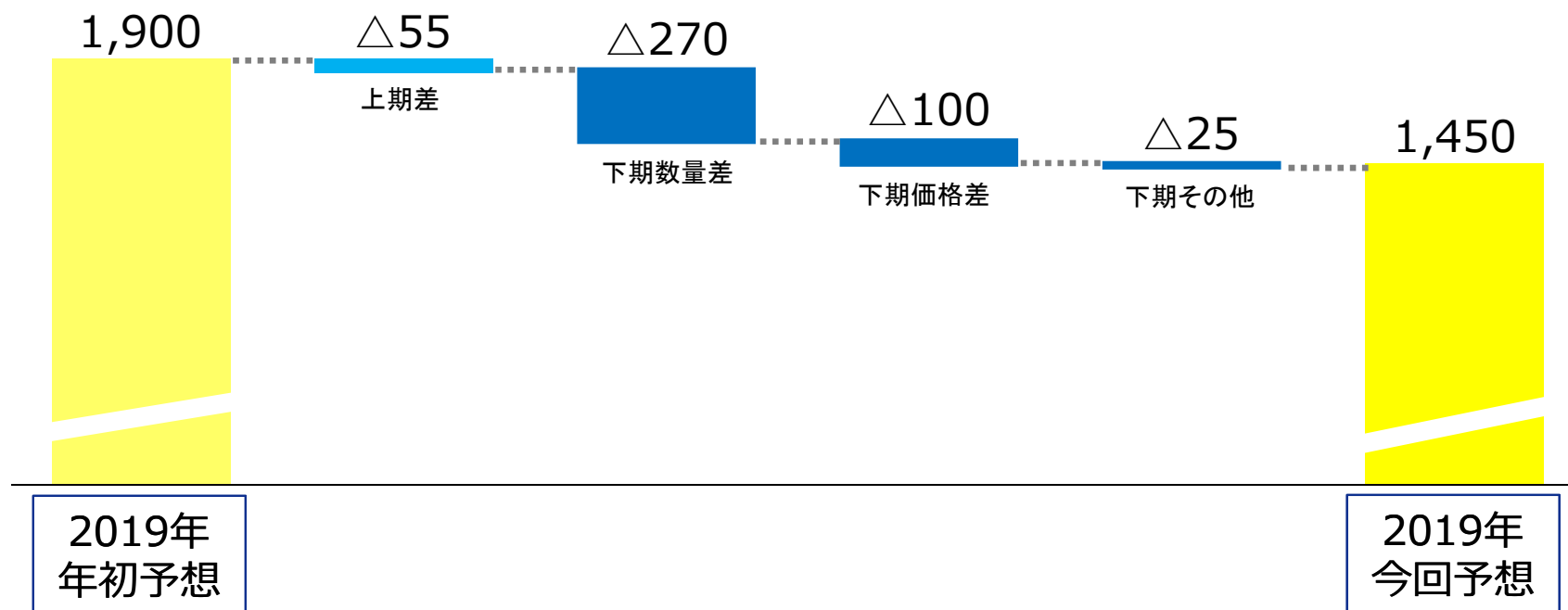
### 下期差異要因

数量差：黒鉛電極減産 欧州顧客在庫調整、中国軟化

IT・半導体の生産調整

価格差：黒鉛電極単価差、石化アジア需給の軟化

(単位:億円)



### 3. 主要事業の状況と課題

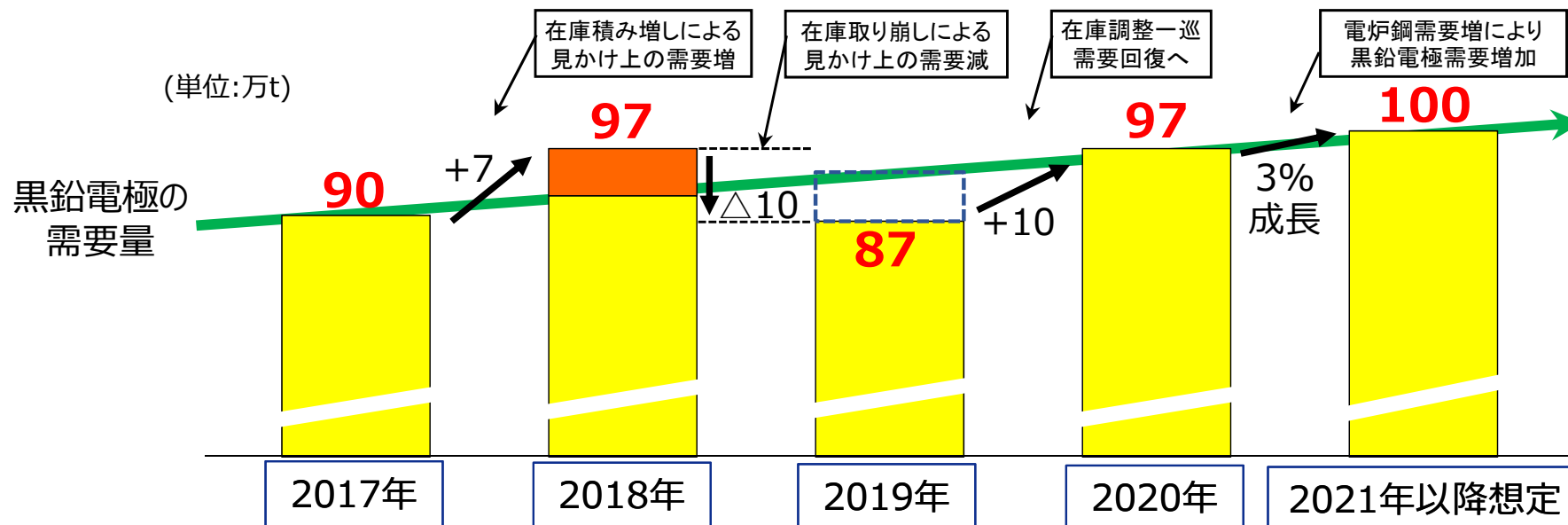
## 黒鉛電極①



### 黒鉛電極：2019年がボトム・下期調整一巡、2020年に正常化

- 2019年15%（年初予想比）の減産実施
- 世界需要（中国除く）約90万tに対し、2018年は約1割の在庫積み増しが発生、見かけ需要が大幅増加
- 2019年は、中国の景気減速・貿易摩擦等による鉄鋼需要の停滞感から、顧客側で積み増した在庫の取り崩しが発生、見かけ需要が大幅減少
- 2019年で在庫取り崩し一巡、2020年から需要回復、電炉鋼需要増大で需給逼迫

黒鉛電極の見かけ世界需要（中国除く）

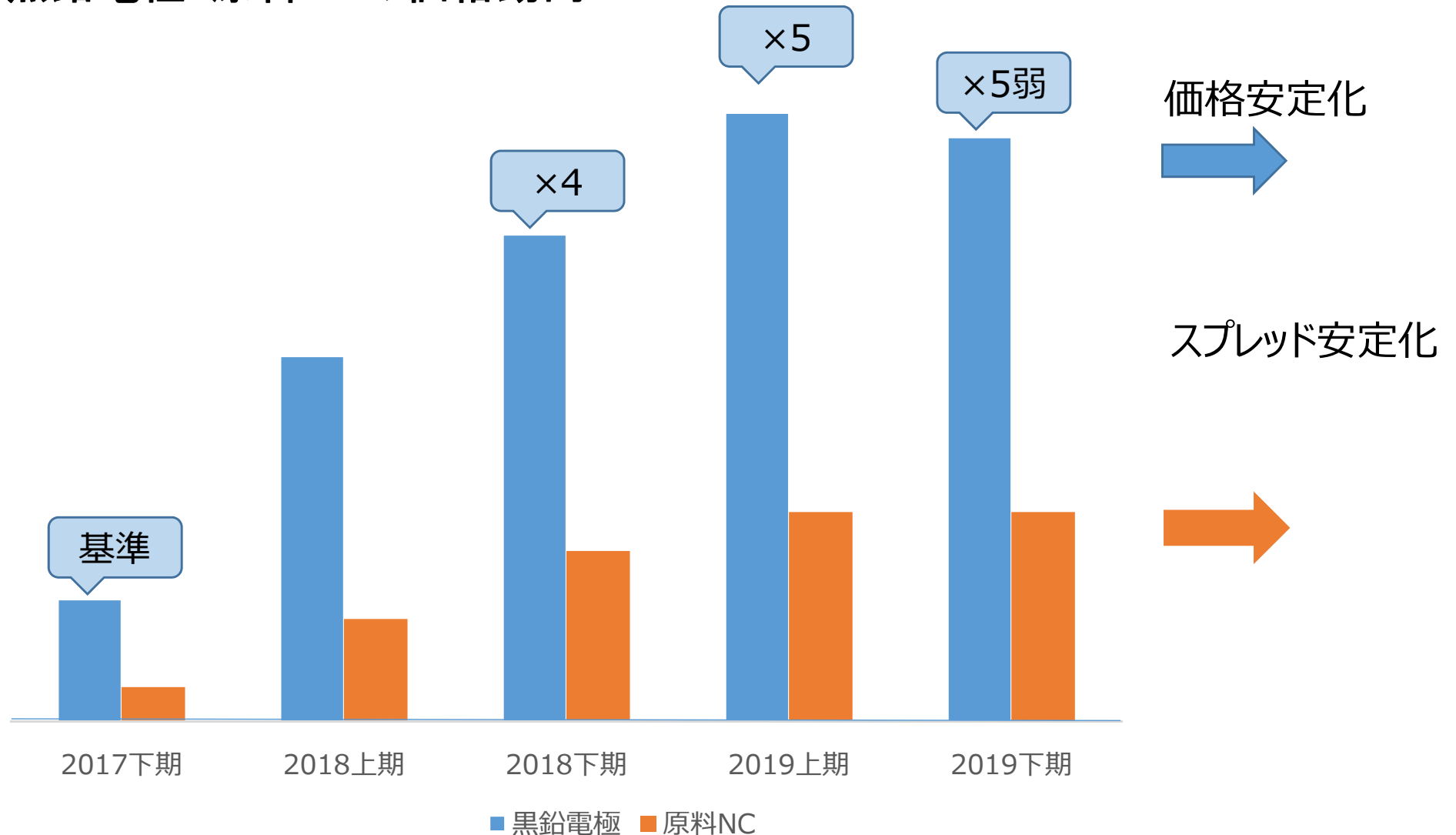


### 3. 主要事業の状況と課題

## 黒鉛電極②



### 黒鉛電極・原料NCの価格動向





### 3. 主要事業の状況と課題

## 黒鉛電極③



### 黒鉛電極の種類

UHP (電炉用電極)

- Tier1 (顧客ごとにカスタマイズされた電極)
- Tier2 (カスタマイズされていない画一品)

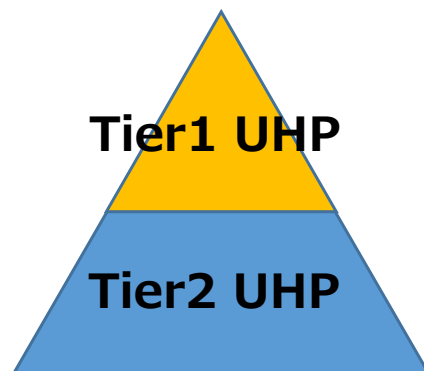
HP (LF用・中国ハイブリッド電炉用電極)

### 地域別電炉鋼市場の特徴

米国・東アジア市場  
(日本・韓国・台湾)

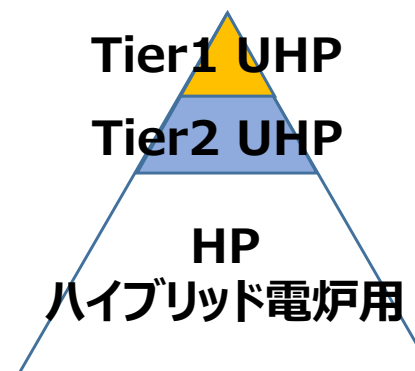


欧州市場



欧州拠点の品質を  
Tier1UHPに引き上げ  
欧州市場でTier1UHP電極比率向上

中国市場



Tier1UHP供給体制構築

収益をさらに高いレベルで安定化

### 3. 主要事業の状況と課題

## 電子材料用高純度ガス



### 2019年上期の状況

- 世界的な半導体生産調整の影響を受け減速
- ロジックやCIS等の非メモリ半導体向けやディスプレイ向けは比較的堅調
- 3D-NANDやDRAM等のメモリ半導体向けはメモリ市況の大幅悪化による生産調整の影響を受けて需要停滞

### 2019年下期の見通し

- 半導体向け高純度ガス需要は早ければ4Qから回復
- 3D-NANDの多層化やDRAMの微細化等、半導体先端技術の進展により、高純度ガスの使用量はますます増加
- 米中貿易摩擦、ファーウェイへの規制の影響を注視

### 2019年の課題と施策

- 2020年からの半導体市況反転、高純度ガス需要急増に備えて供給体制強化策を実施（生産能力増強投資、中国での生産拠点増設投資、JV立ち上げ等）



### 3. 主要事業の状況と課題

## ハードディスク



### 2019年上期の状況

- データセンター（DC）建設の停滞によるニアラインストレージ（NL）需要の停滞でHDメディアの出荷減少
- 次世代記録方式（MAMR/HAMR）対応メディア開発

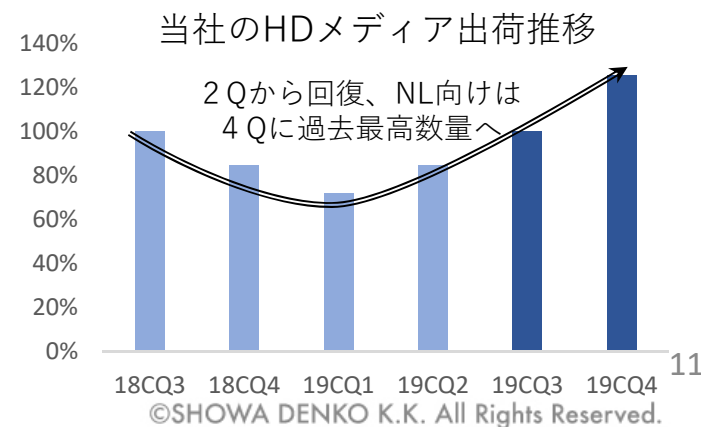
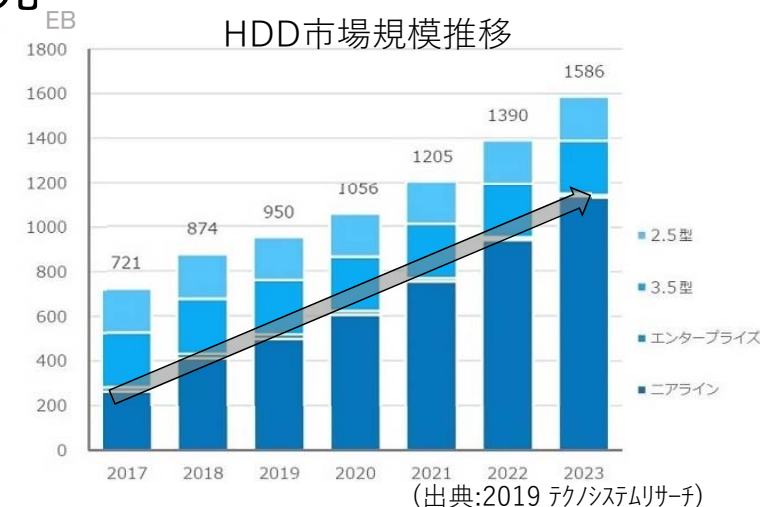
### 2019年下期の見通し

#### 当社HD事業は回復基調、来期大幅数量増へ

- 下期から大手DCの投資需要が回復し、HDD出荷回復見込み
- HDD各社は、3Qは14TB品が主力となるが、4Qから16TB品へのシフト進む

### 2019年の課題と施策

- 成長分野のNLに対し、技術優位性あるメディアを提供
- アルミ内製基板の最大化により、性能・品質向上とコスト競争力強化
- 次世代記録方式（MAMR）対応メディア供給開始
- 新規顧客向けの量産開始



### 3. 主要事業の状況と課題

## パワー半導体SiC



#### 2019年上期の状況

- ウェハーの大口径化へのシフト加速
- 電鉄向け、EV充電器向け等、市場は確実に伸長・当社出荷量は対前年比30%増も、太陽光発電は中国補助金削減の影響で需要減少

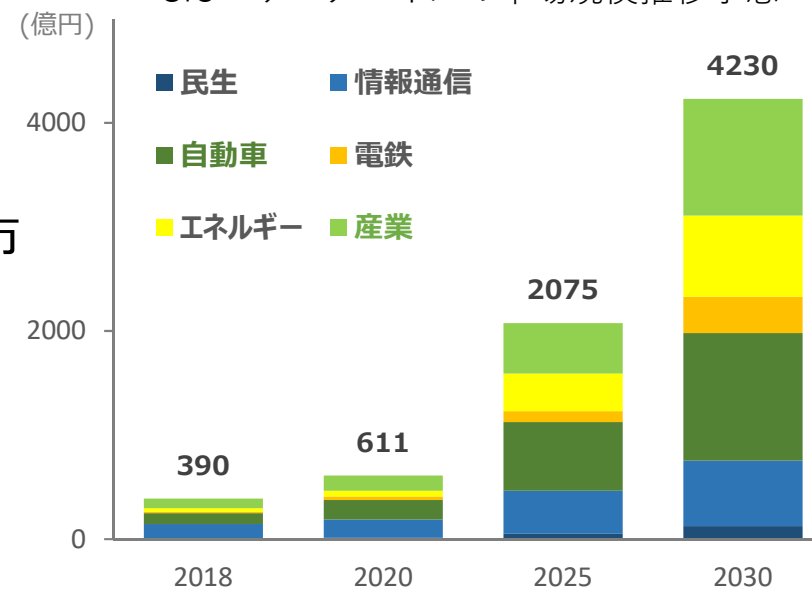
#### 2019年下期の見通し

- 新規エピ炉増設工事完了
- 第2世代高品質パワー半導体SiCエピウェハー上市
- 圧倒的高品位なハイグレードエピへの投資を継続、グローバルシェアを拡大（約30% ※含、内製）

#### 2019年の課題と施策

- 堅調な電鉄向け等の需要を確実に獲得
- 海外対応強化（欧州市場への展開本格化、アジア6インチFab対応のセールス網整備）
- Best-in-Classのエピを世界に安定供給し、SiCデバイスの本格普及を支える

SiCパワーデバイスの市場規模推移予想



(出典:2019富士経済)

### 3. 主要事業の状況と課題

## セラミックス



### 2019年上期の状況

- 事業再構築（汎用アルミナからの撤退）完了し、収益力向上
- MLCC向け酸化チタン増産設備完成、上期はIT・半導体生産調整の影響
- 放熱フィラーは車載用LIB周りの冷却部材に採用

### 2019年下期の見通し

- 自動車電装化、家電のIoT化によりMLCC需要増加
- MLCC向け酸化チタンの追加能力増強検討  
スマートフォン向け需要の回復は早くて4Q
- EV販売増に対応したLIB用放熱フィラーの拡大
- 研磨微粉は高精細ディスプレイ向けガラス研磨用等で需要増加

MLCC向け酸化チタン



### 2019年の課題と施策

- 自動車の電装化による放熱フィラー増設検討
- MLCC向け酸化チタンはスマートフォンの5G化に向けた能力増強顕現
- マーケティング機能・ソリューション型提案を強化
- 新規研削材の開発促進

### 3. 主要事業の状況と課題

## アルミニウム



### 2019年上期の状況

- アルミ缶：国内収益改善策実施  
ベトナム南部第3拠点新設決定（バリア・ブントウ工場）
- アルミ圧延品：国内電解コンデンサーはFA生産調整の影響  
中国・南通拠点は工程改善で能力増強し増産  
（800t/月⇒1,000t/月へ）
- アルミ機能部材：中国・欧州自動車生産、半導体・FA関連の停滞により数量減



### 2019年下期の見通し

- アルミ缶：国内収益性改善のため生産能力適正化  
海外事業強化のためベトナム第3拠点の建設（2020年7月完成）
- アルミ圧延品：FA向け回復は遅れ、早くて4Qから
- アルミ機能部材：自動車生産低迷、電動車用インバーター冷却器の生産開始

### 2019年の課題と施策

- アルミ缶：国内事業収益性改善策推進、海外展開強化  
生産能力適正化：小山・彦根  
地金連動フォーミュラ導入：顧客との交渉進展、来期顕現化
- アルミ圧延品：高容量タイプの拡販でトップシェア獲得、中国での一貫生産体制検討
- アルミ機能部材：自動車用軽量化部材（サスペンションなど）での提案強化

### 3. 主要事業の状況と課題

## 石油化学



#### 2019年上期の状況

- 中国経済に停滞感があるものの、アジア需要は総じて堅調に推移、国内も堅調な需要が続き高稼働状態が継続
- 当社のクラッカーは誘導品の堅調な需要に支えられフル稼働継続
- 触媒性能向上により、酢酸ビニル・酢酸エチルプラントを2年連続運転達成にメド

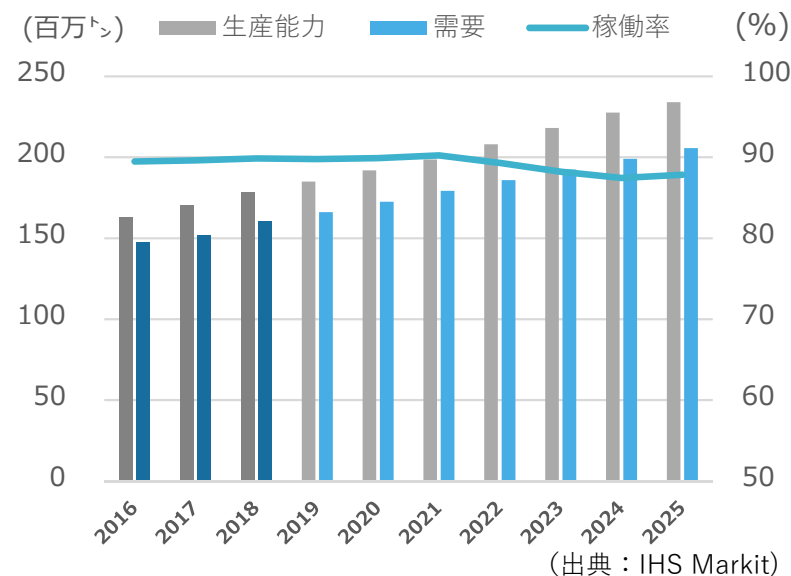
#### 2019年下期の見通し

- 供給増でエチレン、プロピレンの市況は軟化するも、中国の末端需要は引き続き堅調に推移
- ブタジエンは中国の自動車販売減により需要低迷
- 2019年下期も高稼働を継続

#### 2019年の課題と施策

- 安価原料の調達による利益上積み
- エチレンプラントの競争力向上とフル生産・フル販売を継続
- 新規誘導品の拡充

エチレン世界需給見通し



#### 4. 資金の使途と株主還元の充実

### The TOP 2021におけるキャッシュ・フローの使途



- 株主還元の充実
- 成長の実現：稼いだキャッシュを積極投資し、企業価値を向上





## 4. 資金の使途と株主還元の充実

### 株主還元の実績

#### ◆株主還元方針

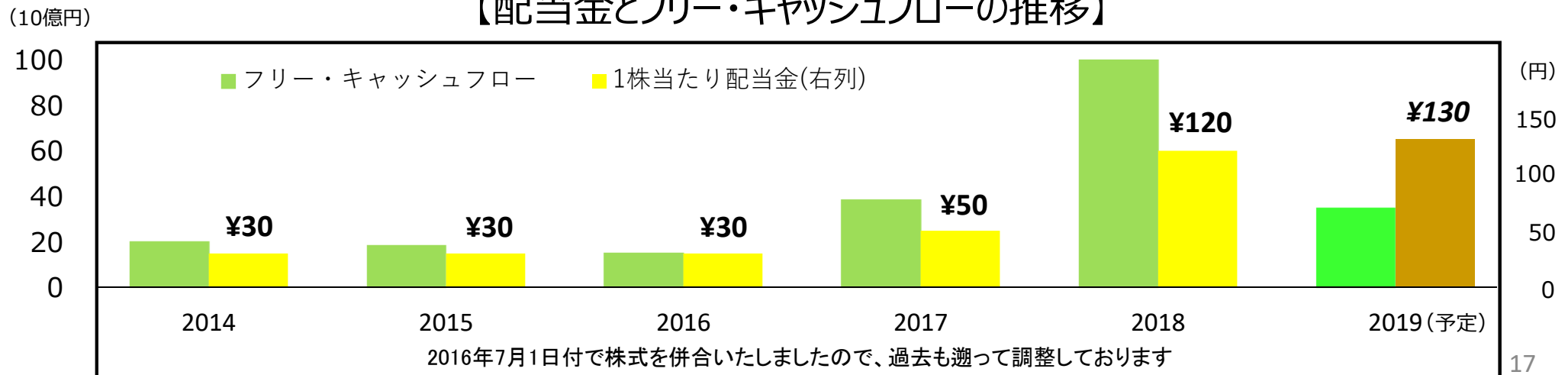
2021年において、総還元性向 30%を目指す

- 配当：中期経営期間中の配当金水準の維持・向上
- 自社株買い：利益・CF及び株価動向を見ながら、機動的な実施を検討
- 自己株式の消去推進
- 投資・M&Aの余剰資金は株主還元へ

#### ◆2019年予定

- 1株当たり配当金 130円：上期 50円、下期 80円
- 総還元性向は2018年実績を上回る

【配当金とフリー・キャッシュフローの推移】

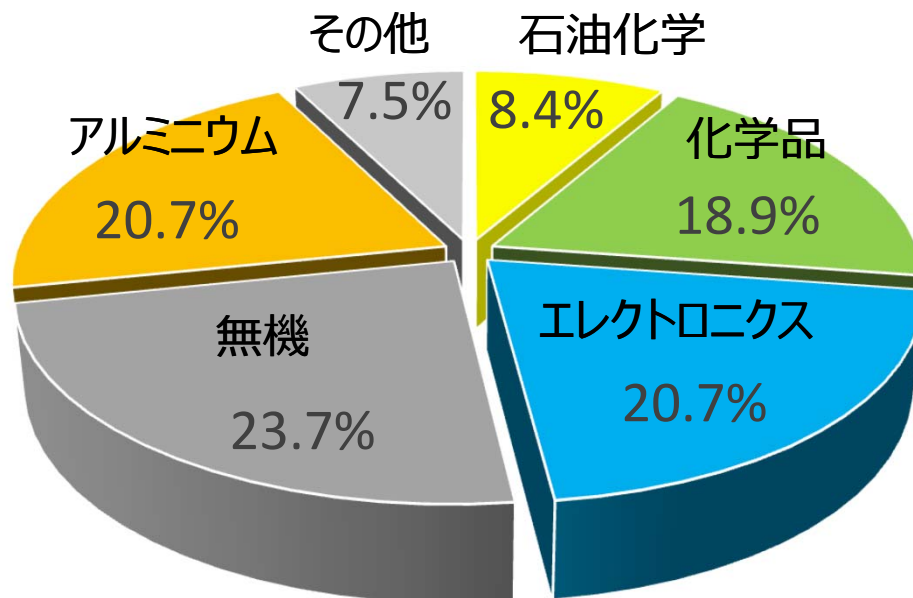


## 4. 資金の使途と株主還元の充実 成長への投資（設備投資・M&A）

### ◆投資に関する方針

中期経営計画の事業ロードマップに基づき、成長を実現するための投資実行  
設備投資基準（戦略投資）：DCF法（WACCを考慮したハードルレート活用）

セグメント別設備投資比率（固定資産計上ベース）



### ◆2019年上期実績

#### ①主な設備投資

- ・黒鉛電極事業の欧州拠点改善
- ・アルミ缶ベトナム第3拠点建設
- ・統合基幹業務システムに SAP S/4HANA導入

#### ②M&A

- ・ノンスティックコーティング ILAG社買収

### ◆2019年下期計画

- ・LIB材料の欧州車載向け増強
- ・電子材料用高純度ガス需要増に向けた増産
- ・パワー半導体SiCエピウェハー増強

# 5. 次世代に向けた開発

次世代技術をターゲットとして、新しい製品・事業を創出する開発を推進

重点ターゲット市場



CASE



次世代通信規格5G



パワー半導体SiC  
第二世代高品質エピの開発



トヨタ自動車殿 中国市場HV車に  
BMC（熱硬化性成形材料）を供給



アルミ・樹脂の複合化を実現する  
直接接合技術を確立

当社の事業・技術

事業・製品  
+  
製品設計  
+  
基礎研究

有機化学

×

アルミニウム

×

無機化学

製品設計技術

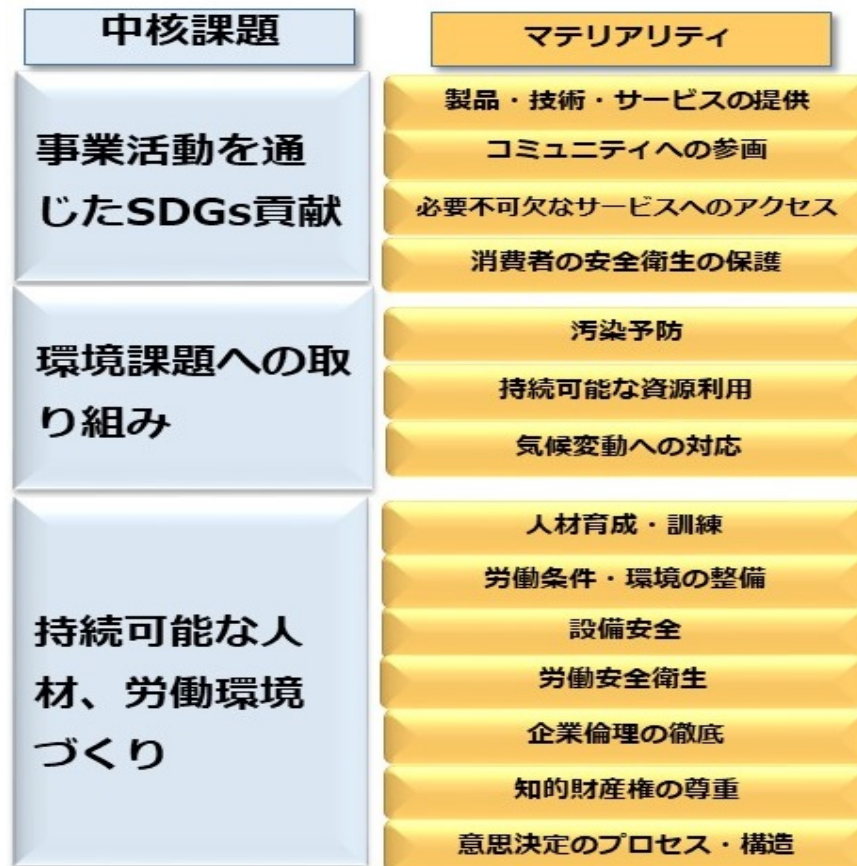
計算科学・物性分析

## 6. SDGsへの貢献 ①

事業活動を通じたSDGs課題解決への貢献と「私たちの行動規範」に基づく全社員の行動により、すべてのステークホルダーにご満足いただける社会貢献企業を目指します

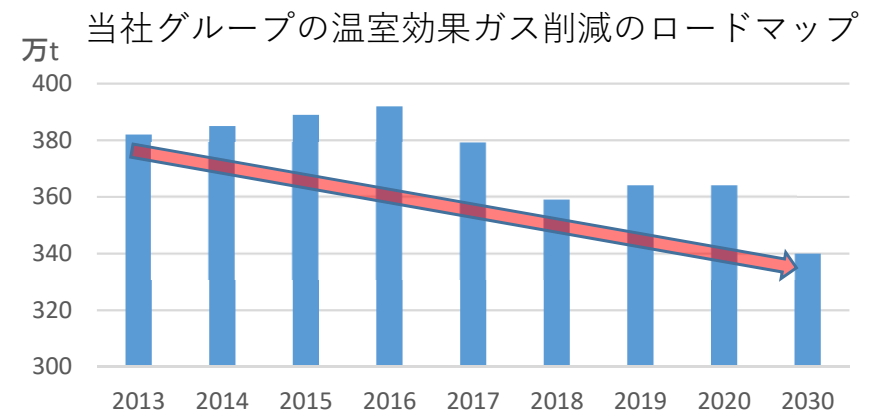
### ◆CSR方針の改定

マテリアリティを3つの中核課題に集約



### ◆温室効果ガス（GHG）削減中期目標の設定

- 2030年目標年度までに基準年（2013年）比11%削減
- 世界基準の算出方法（GHGプロトコル）採用
- 投資判断の要素に社内炭素価格（ICP）活用



### ◆TCFDコンソーシアムへの参加

TCFDの提言に基づき、気候変動が事業に与える影響に関して積極的な情報開示推進

## 6. SDGsへの貢献 ②

### ◆プラスチックケミカルリサイクル 使用済プラスチックのリサイクル事業



使用済プラスチックから水素とCO<sub>2</sub>を取り出し、アンモニアやドライアイスを製造するほか、水素ステーションにも供給して省資源、CO<sub>2</sub>の削減に貢献

### ◆黒鉛電極 鉄スクラップを溶融する電炉用電極



鉄スクラップを溶融して鉄をリサイクルする電炉に使用する黒鉛電極  
鉄鉱石とコークスから鉄を作る高炉法に比べ、CO<sub>2</sub>排出量やエネルギー使用量が少なく、省エネ、省資源、CO<sub>2</sub>削減に貢献

### ◆植物工場 食の安全・安心に貢献



植物育成に最適な光照射を行い植物の生育を促進し収穫量を増大させる当社の独自技術SHIGYO®法（S法）、アルミニウム製栽培棚パネルなど、高速栽培に最適な環境を実現

### 注意事項

本資料に掲載されている当社の業績に関する予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。

なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。